令和７年度　長野県図書館協会
デジタル版　**小中学校図書館部会だより**　第 171 号

第７５回長野県図書館大会・第３３回北信越地区学校図書館研究大会（佐久大会）を終えて

県図書館協会小中学校部会佐久支部長
小諸市立水明小学校　　金井　直樹

11 月 7 日（金）、8 日（土）の二日間に渡り、第 75 回長野県図書館大会・第 33 回北信越地区学校図書館研究大会（佐久大会）を開催いたしました。県内外からおよそ 400 名のご参加をいただきました。ありがとうございました。二日間とも晴天に恵まれたおかげで、皆様にも気持ちよくご参加いただけたのではないかと思います。

全国 SLA からの報告

本年度の大会は、例年の県大会に加え、北信越地区学校図書館研究大会を兼ねた大会として開催いたしました。一昨年度松本大会の終了後には、北信越地区大会が長野県開催であること、その大会を佐久市が受けてくださったことは承知しておりましたが、その段階では、長野県図書館協会と長野県高等学校図書館協議会と全国学校図書館協議会との関係、さらには全国学校図書館協議会と北信越地区を含めた各地区大会との関係など、どの組織がどうつながっていて、どの大会がどこに位置づいているのかといった根本的な大会の存在意義が、なかなかに理解しがたいものであることがまだ分かっていませんでした。その複雑さを理解し整理するためにだいぶ時間を費やしてしまいました。そのため、準備委員会は昨年の 6 月に立ち上げましたが、実質的には須坂大会からの引き継ぎを受けた 12 月頃から本格的に始動し、実行委員会が発足したのち加速してまいりました。

実践公開の様子
佐久市内５小中学校にて

長野県図書館大会は、大会ごとにその内容を決めて行ってきていますが、北信越地区学校図書館研究大会には運営マニュアルがあり、それに則って行う必要があります。中でも、厄介なことは、「二日間で開催」と「学校の公開」を行う必要があったことでした。さらに縛りとして、「最低１５のイベント・コンテンツを用意する」というものもあり、これらを満たすように準備をしてきました。みなさんご承知のように、長野県図書館大会は、学校図書館と公共図書館とが一体になった大会ですので、公共図書館のみなさんも無理なく参加していただけるもの、また、大会を創り上げていく主体として関わっていただけるものにしなければなりません。おかげさまで、佐久支部においては、佐久市立中央図書館をはじめ、佐久地区各自治体の公共図書館のみなさんにも全面的に運営に参加していただくことができました。学校図書館と公共図書館は、求められる役割に違いもありつつ、図書館として共通の課題もあり、その連携については、県レベ

分科会の様子。学校図書館関係は８つの分科会

ル、市町村レベルでそれぞれに考え、実行していく必要がありますが、その連携が大きな力になることも大会運営を通して改めて痛感いたしました。

石井睦美先生の書籍販売とサイン会

それにいたしましてもこの大会の開催にあたっては、多くの皆様のお力添えをいただきました。講演会講師の石井睦美様、全国学校図書館協議会事務局様、長野県図書館協会事務局の皆様、小中学校部会の皆様、公共図書館部会の皆様、長野県高等学校図書館協議会の皆様、北信越各県学校図書館協議会の皆様、佐久市、佐久市教育委員会、実践公開校の先生方と児童生徒のみなさん、県内外よりレポートをお寄せくださった皆様、会場の佐久平交流センターの皆様。挙げきることもできませんが、ご協力、ご参加くださった皆様に心より感謝申し上げます。

11 月 7 日の夕方に行った北信越地区協議会においては、北信越大会のあり方そのものを見直してほしいという意見をまとめ、全国学校図書館協議会の理事長にお伝えすることができました。長野県のみならず、他の北信越各県においても、「二日間開催」や「学校公開」といった縛りは負担であることが確認されました。どの地域も児童生徒の減少に伴い学校数、学校規模が縮小している中で、これまでと同様の大会運営を維持するのは困難であり現実的ではないことを、全国協議会でも真摯に受け止めて改善の道筋をつけてくださることを期待しております。

大会を終えて、内容については、ご参加くださった皆様それぞれに得られるものがあったであろうと自負しておりますが、大会のあり方等については、今後に引き継ぐ課題が多くあると感じております。次回、諏訪大会に期待し、また北信越大会が長野県に来る８年後にも期待したいと思います。皆様、ありがとうございました。

第７５回長野県図書館大会（佐久大会）
兼 第３３回北信越地区学校図書館研究大会　参加者の声

佐久市立中佐都小学校　村上　晃司

－学校図書館活動を核とした「探究的な学び」の深化－

本校は実践活動校として、県内はもとより北信越地区より来訪された図書館関係者の皆様に、児童の読書に関わる学習活動を見ていただきました。公開授業として、４年生によるビブリオバトルを実施。この活動は、一人ひとりが選んだ本を、グループ内で制限時間内に紹介し、最も「読んでみたい」と思わせた本に投票する知的書評合戦です。これは、本校が推進する「探究的な学び」のプロセスそのものです。「紹介したい本」を選ぶ活動は、情報過多の時代における情報の選定能力を育みます。また、３分間に本質的な魅力を凝縮して伝えるために、本の構造や面白さの核を理解し、紹介の構成を練る思考力を働かせます。そして、表現として、相手の興味を引きつけ、読み手を動かす言語化能力、プレゼンテーション能力を発揮します。実際の活動では、個性が光り、聞いている参観者からも「なるほど！」「読んでみたい！」という声が上がるほど、質の高いアウトプットが展開されました。多様な活動を通じた表現力の向上が、探究の成果発表の土台を確実に築いていることを示すことができました。

もう一つの実践活動では、学校図書館教育における地域連携の重要性も示しました。「お話の会」による読み聞かせ活動では、地域の方々との交流の様子を見ていただきました。この活動は、多様な価値観に触れる機会となり社会性の育成に貢献します。また、豊かな物語に触れることは、語彙力や想像力を向上させ、探究における問題設定能力や多角的な視点を持つ思考力の源となります。地域の方々に支えられたこの活動が、継続的な読書習慣と、それに基づく探究的な学習の確かな土台を築いていることを、参観者の皆様に深く伝えることができました。

今回の実践公開を通して、以下の二点を強く再認識いたしました。本校の図書館活動における多様なインプット・アウトプット活動が、探究的な学びの質を高める力になっていること。地域の方々が、日常的な学びを支えてくださっていることに対する、深い感謝の念。この成果を糧に、図書館を「知の拠点」として位置づけ続け、探究的な学びをさらに深化させるための環境整備と指導法の開発を今後も推進していきたいと思っています。

御代田町立御代田北小学校　　鈴木　亜希子

「参加して、発表して、本当によかった！」これが司書の荻原好枝先生と私の一番の感想です。

分科会にて、本校の図書館経営や荻原司書の想いを発表する機会をいただき、改めて自校の取組を振り返ることができました。さらに新潟市立葛塚小学校の実践発表に感銘を受け、その後のグループ討議でもご意見をいただいたり、お互いの実践を共有したりしました。子どもたちや本、図書館という場が大好きな方々、他校・他県の方々と交流することができ、自分たちでは思いつかないような取組に触れたり、たくさんの新しい視点をいただいたりして、あれもこれもやってみたいとわくわくし、子ども達の喜ぶ姿が思い浮かんできてじっとしていられない気持ちになるとっても楽しい時間でした。

石井睦美氏の記念講演でも、「ことばと出逢う」「自分という物語を生きていく」というキーワードを通して、図書館教育が学校教育の根底を担っていると再認識したと同時に、「今、一番学校で問題になっていることは、いじめでも授業の荒れでもなく、子どもたちが本を読まなくなったことです」「本は簡単には読めない」というお話から、今こそ図書館教育をベースに子どもたちの豊かな人生につながる手ざわりのある学びをつくりだす時なのだと、熱い想いで会場を後にしました。

あたたかくやさしくうつくしいことばが子どもたちの物語にあふれますように。たくさんのことばと出逢い、からだに取り込むことのできる図書館教育をめざし、頑張っていこうと思っています。

地区学校図書館教育研究会から

中信地区

１０月３日　松川村すずの音ホール研修室・松川村図書館
「中信地区図書館教育研究大会を終えて」
大北支部代表　白馬村立白馬南小学校　蓑輪　勝枝

１　研究テーマ

「学びと心のよりどころとなる学校図書館のあり方
～学校内外の連携による読書・学習、情報センター機能の構築を目指して～」

２　事例発表・情報交換会

・大北支部　　松川中学校図書館実践報告～ようこそ松川中学校へ～
　　松川中学校　原　巳奈子　学校司書
・情報交換会　グループに分かれて各校の取り組みを紹介

３　講演会

講　師　　棟田　聖子　館長（松川村図書館）
「学びと心のよりどころとなる学校図書館のあり方
～学校内外の連携による読書・学習、情報センター機能の構築を目指して～」

４　参加人数　小学校１０名　中学校６名　計１６名

５　まとめ

【松川中学校事例発表】

中学校での図書館活用が読書活動につながっている点が参考になった。松川中図書館・松川村の事例では、図書委員や生徒の主体的な活動が印象的で、学校司書の関わりの可能性も感じられた。図書館環境の工夫（行きたくなる・借りたくなる仕掛け）が多く、参加者からは、地域との連携（公共図書館・美術館）による読書生活の仕組みづくりが羨ましいという声もあった。

【講演会】

棟田先生の講演では、松川村の取り組み、村の図書館とちひろ美術館、小中学校図書館との連携や、図書館の役割の広がりについての話が興味深く、図書館運営についての知識を広げる内容で、今後の活動に活かせそうとの声が多かった。また、デジとしょ信州（デジタル図書館）の導入・運営に関する話題では、小中学校での活用への意欲が見られた。

【情報交換会】

グループに分かれ各校の実践を紹介した。豊科東小の取り組みでは、図書館だよりを通じた工夫が参考になった。デジとしょ信州の活用法（蔵書点検中の読書支援など）についての具体的なアイデアや、各校の成功事例や実践、困りごとを共有できる貴重な機会だった。

令和７年度中信地区図書館教育研究会参加報告

池田町立会染小学校　栗林　仁子

松川村図書館で開催された「学びと心のよりどころとなる学校図書館のあり方～学校内外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指して～」をテーマとした実践発表・講演を拝聴いたしました。

大北支部の実践では、松川中学校図書館司書の原先生による年間を通しての活動内容について発表がありました。校内における活動事例では、図書館の授業のない中学校でいかにして利用者を増やしていくかの工夫と試みを、校外活動ではちひろ美術館や松川村図書館と連携して夏休みに行うボランティア活動についてでした。松川村は小・中学校と図書館、美術館が連携し、地域の子どもたちと関わりながら行う教育活動が徹底していることは存じておりましたが、小学校で育まれた読書活動が子どもたちにしっかりと根付いているおかげで、中学校の校外活動で今度は自分たちが小学生へ貢献するというペイ・フォワードサイクルが完成している地域のしくみのなんと秀逸なこと！それが成り立ついくつかの理由が、次の松川村図書館棟田館長の講演「地域とつながる公共図書館」の中で明らかになりました。一般書・児童書混架の特色ある拝架、児童サービス中心の運営、学校帰りに公共図書館への寄り道が可能など、子どもたちの育成や見守りを重視した公共図書館であること、さらにちひろ美術館との協賛による子どもを中心としたイベントや行事で地域や学校と密接に関わることなどが挙げられ、まさに本来の社会教育施設のあり方として理想的な姿なのではないかと改めて感じました。そっくり同じようにまねることはできなくても、社会教育施設と学校、公共図書館がタッグを組んでできる活動についていろいろ考えさせられるよい機会となったことを、今回の研究会のためにご尽力くださった先生方、松川村図書館の皆様に心より感謝申し上げます。

松川村立松川小学校　西澤 真愛

すずの音ホールで開催された中信地区学校図書館教育研究大会(大北支部)に参加しました。大北支部代表として松川中学校の原先生より、読書・学習・情報センターの三つの柱を基盤に、地域と連携した図書館運営の実践発表がありました。安曇野ちひろ美術館と協働する「中学生ボランティア」は 2002 年から続いており、水彩技法体験やガイドツアー、絵本の読み聞かせを行っているそうです。毎年 8 月 6 から 8 日に実施している読み聞かせボランティアでは、美術館の展示内容や平和をテーマに選書した本を約三ヶ月練習し、本番に臨むとのことでした。生徒の感想からは、挑戦が自信につながった、来館者の拍手・声掛けが励みになったなど、この経験が確かな成長に繋がっている様子が伝わりました。また、貸出冊数に応じてピースを集めパズルを完成させるイベントや、館内本に隠された卵を探す「イースターエッグハント」など、普段図書館利用の少ない生徒も楽しみながら参加できる企画が多数紹介されました。講演会では「地域とつながる公共図書館」をテーマに松川村図書館の棟田館長よりお話がありました。特徴的な配架として、蔵書の約 45%が児童書であること、一般書と児童書を同じ棚に並べる「混架」が挙げられました。0 類から 8 類を混架にすることで、児童書を入門書として手に取る大人にも深い知識を求める子どもにも利点があるそうです。また、学校帰りに図書館で保護者を待つ児童のためにランドセル置き場が設置されており、日常的に地域の子ども達が集まる場として機能されています。安曇野ちひろ美術館とのワークショップや著名作家のイベント、松川中学校生徒への読み聞かせ指導や職場体験の受入れ、松川小学校児童の図書館見学など、多様な学びを支える場として図書館が地域の拠点となり、交流を育まれている様子も紹介されました。今回の研修を通し、図書館が誰にとっても安心して過ごせる場所であることの大切さや、学びを支える重要な役割を担うことを実感しました。今後もニーズに応じた支援と環境づくりに努めたいと思います。

南信地区

１０月２４日　松川町 松川中央公民館えみりあ「えみりあホール」

「南信地区学校図書館教育研究大会を終えて」

下伊那支部代表　飯田市立上久堅小学校　増田　祐美

１　大会テーマ

「学校図書館の挑戦　～日頃の取組から学校図書館の未来を描く～」

２　講演会

講　師　　三宅　香帆 氏（文芸評論家　京都市立芸術大学非常勤講師）

演　題　　「言語化の技術」

３　参加人数　講演会　　…８２名

下伊那支部取組発表　…５５名

グループ別情報交換会…４３名

４　まとめ

【三宅香帆氏　講演会】

「読書」「ノイズ」「言語化」に触れながら講演いただきました。参加者からは「楽しく元気になれる内容だった」「あっという間の 90 分だった」との声が多く寄せられ、講師の軽妙な語り口と豊富な事例が、読書の新しい魅力を伝える場となりました。

「ノイズは悪いものではなく、偶然の出会いや周辺知識が新しい発想を生む」という言葉は印象的であり、図書館や書架をめぐる体験の価値を再認識させるものとなりました。また、「好き」を細分化して言語化することが、自己理解や他者理解につながるという視点は、学校現場での読書指導や本の紹介活動に直結する実践的示唆を与えていただきました。

【下伊那支部取組発表】飯田西中学校・牧野優子

①下伊那教育会学校図書館委員会活動紹介

②飯田市学校図書館取組紹介：「自発的な読書活動の推進」「情報活用能力育成指導の推進」を柱に据えた図書館経営計画の作成と年度末の実践報告共有など、市全体でよりよい図書館づくりに取り組んでいる。また、市内全校の学校司書が共有で使えるデータを整備するなど、図書館 DX を推進している。

③飯田西中学校取組紹介：学校図書館が中心となり、「一人一探究」「探究タイム」をカリキュラムに位置づけ、年間を通して生徒の情報活用能力を育んでいる実践は学ぶべきことが多くありました。飯田西中学校と同じことはできなくても、学校職員と連携して情報活用能力育成や、発信の場としての図書館のあり方を考えていきたいと思いました。

【グループ別情報交換会】参加者が A4 版１枚程度の実践報告書を持ち寄り、４０分ずつ２回実施

各校、各学校司書の挑戦や工夫を共有でき、大きな刺激となりました。少人数グループでの対話は話しやすく、グループ替えを行うことで校種や地域を越えた幅広い実践に触れることができ、共感や励ましを得られた点も、これからの図書館運営につながるものとなりました。さらに、実践報告のレポートや写真資料により、直接聞けなかった学校の様子を知ることができ、学びを深める助けとなりました。

【その他】

今年度の大会は授業公開・授業研究会を開催しない形で実施しました。下伊那支部や各校の取組や工夫を直接語り合う時間が確保され、情報量が豊かで有意義な大会となりました。終日開催により交流の時間が十分にあり、地域全体で学校図書館の未来を考える場をつくることができました。

令和７年度南信地区学校図書館教育研究会参加報告

松川中央小学校　宮澤　悠紀

10 月 24 日（金）に行われた南信地区学校図書館教育研究大会に参加させていただきました。今年度の大会テーマ『学校図書館の挑戦～日頃の取組から学校図書館の未来を描く～』でした。ここ数年の目まぐるしい社会の変化を目の当たりにし図書館のこれからを働く誰もが不安に考えているそんな今「挑戦」「未来を描く」という大会テーマはとてもありがたく、現代の図書館や教育現場で働く私たちのニーズに合ったものでした。

講演会では、文芸評論家の三宅香帆さんに「好きの言語化」の演題で講演いただきました。中盤、「自分の好きなものの好きな理由を２つ以上あげて隣の人に語る」というワークショップがありました。好きなのだから言葉が溢れてくるとおもいきや、２つめの理由がなかなかでてこない…普段であれば自分の「好き」を自分に説明する必要はありません。しかし、他者に伝えるためには言語化しなければならないので、改めて好きと自分を省みて考えだしました。それをいざ声に出し他者へアウトプットしましたら、不思議なことにそれがまた自分へインプットになり、好きなことをより深く好きになれたのです。「やばい」「すげ～」では相手だけでなく自分にも伝わっていなかったのです。誰かに伝えるとき、それは自分の中の自分にも伝えるときなのだと感じました。学校図書館で接する子どもたちとのコミュニケーションにも役立つ貴重な体験をさせていただきました。

下伊那支部代表取組報告では、児童への蔵書検索システムの提供や、Canva の活用、指導教材のデータベース作成の事例発表がありました。コロナ禍で一気に進んだ教育現場のＤＸでしたが、図書館もやや遅れながらＤＸが進み、飯田市内・下伊那の学校の電算化も完了してきました。DX は自治体により差がありますが、できることから挑戦し未来の学校図書館のために今こそ進めて行かなければならないと再確認できました。

最後に、今回の大会に関わり、ご準備いただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

飯田市立旭ヶ丘中学校　青木　仁美

三宅氏の講演では「言語化」をキーワードにお話しいただきました。情報化社会の中で私たちはいつの間にか本を教養や娯楽のために本を読むことを減らし、必要最低限の情報だけを求めるようになっています。その結果、本を通して会話を深めたり、知識を広げたりする機会が少なくなり、個人の時間を大切にする傾向が強まっています。けれども、本や新聞などの活字媒体には、必要な情報以外の＝「ノイズ」と思える部分にこそ大切な背景や知識が隠されていて、それを積極的に取り入れることで自分自身を豊かにできるのだと教えていただきました。また、得た情報を言葉にすることで、自分の考えを整理できるだけでなく、相手を尊重する心を育てることにもつながるとお話しくださいました。講演を通して、改めて「本」の価値を見直すことができました。本は一ページめくるたびに新しい言葉との出会いがあり、自分の視野や考え方を広げてくれるものです。そのような貴重な体験を、私たち大人が子どもたちに積極的に届けていくことが大切だと思いました。また、これからの学校図書館の役割についても見出すことができました。授業内で学校図書館を利用する際には調べ学習が中心となりがちですが、単なる情報収集の場にとどまらず、本を通した対話の機会を増やすことで、児童生徒の教養と表現力を育む場として活用していきたいと思います。

講演後の情報交換会では、各校の実践を共有し、学校図書館の活用方法について語り合いました。ビブリオバトルやブックトークなど、本から生まれる対話を重視した取組、地域の方の協力による絵本の読み聞かせ、ＩＣＴ機器を活用して児童生徒自身が本を検索・取り寄せる方法などが発表され、同グループの皆さんが、自校の図書館運営に活かそうとする姿勢がうかがえました。

今回の研究大会を通して、これからの子どもたちのために学校図書館やそれを担う教員ができる多くの手立てを見出すことができました。今後も、子どもたちの想像力を豊かにし、表現できる場を提供し続けられるよう、日々研鑽を重ねていきたいと思います。

北信地区

１０月１６日　千曲市立更級小学校　千曲市立戸倉上山田中学校

「令和７年度　北信地区図書館教育研究大会（更埴支部）を終えて」

更埴支部代表　千曲市立更級小学校　松澤　幸嗣

１　大会テーマ

「図書館の情報センターとしての役割を充実させるために」

２　公開授業・授業研究会

会場校	授業学級・授業者	教科・単元名	指導者
更級小学校	３年１組 小澤　新正　教諭	国　語 「お気に入りの本を紹介しよう」	中信教育事務所　指導主事 小沢　正太郎　先生
戸倉上山田 中学校	３年３組 小野　優　教諭	国　語 「説得力のある構成を考えよう」	北信教育事務所　指導主事 小林　順　先生

３　講演会（オンライン開催）

講師　くすのき　しげのり　先生（児童文学作家　徳島県在住　元小学校教諭）

演題　「一人ひとりがみんなたいせつ　～作品に託す願い～」

４　参加人数

小学校：１１名　中学校会場：９名　オンライン参加（講演会のみ）：１８名　　計３８名

５　まとめ

【更級小学校】

国語の単元「お気に入りの本を紹介しよう」で、自分がオススメする絵本を紹介するための「イチオシポイント」を自分なりに考え、発表原稿にまとめる活動を行った。紹介する相手が１年生だとはっきりしていたので、子どもたちも考えやすかったのではないかと感じた。また、学校司書の発表例も参考にして、友達と相談しながらイチオシポイントをじっくり考えることができたので、とても読みたくなるような紹介文が書けていたと思う。他にも、館内のあちこちに児童の紹介 POP や作品、先生のオススメ本などが掲示されていて、本を借りたくなる工夫にあふれた図書館だった。環境が子どもたちを育てることの意味を、改めて確認することができた。

【戸倉上山田中学校】

国語の単元「説得力のある構成を考えよう」で、松尾芭蕉の「奥の細道」の経路から、実際の旅行プランを考えるという興味深い授業だった。生徒間のかかわりが温かく自然で、改めて学級づくりの大切さも授業を通して学ぶことができた。授業後には小林指導主事から、「図書館が情報センターとしての機能を果たすには、見たい時にすぐ手に取れる状況にあることが大切」というお話をしていただき、今後の図書館経営の参考になった。

【講演会】

くすのき先生は、元小学校教諭の経験を通して感じた、「何気ない日常生活の中で子どもが感じる困り感や切なさ」を作品で表している。本人の力だけではどうにもならないこともあるが、そういう時は周りにいる大人や友達が本人の困り感を感じ取って支援できるかにかかっているということが、作者の思いを聞く中ではっきりと伝わってきた。作者が作品に込めた願いや思いを、私たち読者はしっかりと受け止めて理解し、他者に伝えていく必要があることを強く実感した講演会だった。なお、くすのき先生の絵本には隠された相関関係が随所にあるので、それを紐解きながら読んでみるのも面白いのではないかと思った。

令和７年度北信地区図書館教育研究大会参加報告

中野市立豊田小学校　千野　美奈

【授業の感想：更級小学校３年国語「お気に入りの本を紹介しよう」】

貴重な授業公開をしていただき、大変勉強になりました。この授業をきっかけに図書館に足を運ぶ子どもたちが多くなりそうですね。

Ｔ・Ｙさんは、自分の「イチオシポイント」をもとに本を選んでいました。学習プリントの「イチオシポイント」の欄にも、自分のキーワード「友だち」を意識したことを書いていました。その後の枠にはイチオシポイントからずれてしまった記載だったので、今後の授業では相手意識や「イチオシポイント」を再確認して行っていくといいかな、と思いました。

授業の終末は、参観の先生方へ子どもたちが読んでいましたが、本時のねらいから外れてしまったように思います。１年生に紹介するためなので、そういう視点で自分の文章を読み直したり、友だちに聞いてもらったりすると良かったと思います。

【講演会の感想　講師：くすのき　しげのり先生】

心に染み入る講演でした。今日、学校で早速学校司書の先生に先生の講演会について話しました。先生の作品にはたくさんのメッセージが込められていました。先生の温かな声で読み進んでいく絵本にどんどん引き込まれ、登場人物に感情移入しながら聞かせていただきました。本校の図書館にも先生の本がたくさん入っています。子どもたちや保護者の方にも紹介していきたいと思います。絵本カレンダーや相関図も参考にしながら絵本を読み深めていきたいです。

中野市立中野平中学校　山本　初恵

【授業の感想：戸倉上山田中学校３年国語「説得力のある構成を考えよう」】

当初のコースと変更した会社（グループ）がありました。変更は可能か否か話し合っていましたが、「先生に聞いてみよう」となり先生に確認し、先生から「それもありだから、プレゼンできちんと説明してみたら」というような言葉を投げかけてもらうと、そこからは息を吹き返したかのように調べている姿がありました。

お友達の何気ない呟きを拾いあげ、発展していく姿もありました。お友達の何気ない目線や言動に心を寄せられる優しい生徒さん達ですね。

先生も生徒さんの探究心を上手に引き出させるような言葉がけをタイミングよくされていて、生徒さんの生き生きされた表情から先生とのつながりを感じ和ませていただきました。

資料がたくさんありました。「インターネット情報は範囲が広すぎてそれ故に探すことができない。そこに本があると本もあるよと言える・本に手をだす」と小林指導主事先生がおっしゃられていました。本時でも、本を手にする姿がありました。「本もあるよ」といえる環境にすることが大事ですね。学校司書から先にアプローチすることに心がけたいと思いました。ありがとうございました。

【講演会の感想　講師：くすのき　しげのり先生】

先生方から【おすすめ本】として多くあげられるのが、くすのき しげのり先生の『おこだでませんように』です。「絵本は絵から読む」と言われますが、絵をじっくり観ることもなくいます。今回、『おこだでませんように』の絵についてお聴きでき嬉しくなりました。『ええたまいっちょう』とあわせて、紹介させていただきます。

くすのき先生の「絵」・「画」の裏話もお聞きでき、まさに言い得て妙となりました。「画家に絵を描いてもらうから　物語に集中できる」先生の作品をずら～っと面だし紹介すると、様々な絵に驚かされます。物語を先生のお声でお聞きできた貴重な時間となりました。ありがとうございました。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会　小中学校図書館部会だより　第１７１号
発行日　令和７年１２月２０日
発行者　長野市若里 1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会小中学校図書館部会（代表　山口　美直）